

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2013-102968

(P2013-102968A)

(43) 公開日 平成25年5月30日(2013.5.30)

(51) Int.Cl.
A47J 37/06 (2006.01)F1
A47J 37/06 366テーマコード (参考)
4B040

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 13 頁)

(21) 出願番号 特願2011-248948 (P2011-248948)
(22) 出願日 平成23年11月14日 (2011.11.14)(71) 出願人 301071893
株式会社ハーマン
大阪府大阪市此花区春日出南三丁目2番1
〇号
(74) 代理人 100107308
弁理士 北村 修一郎
(74) 代理人 100120352
弁理士 三宅 一郎
(74) 代理人 100128901
弁理士 東 邦彦
(72) 発明者 石川 善克
大阪府大阪市此花区春日出南三丁目2番1
〇号 株式会社ハーマン内

最終頁に続く

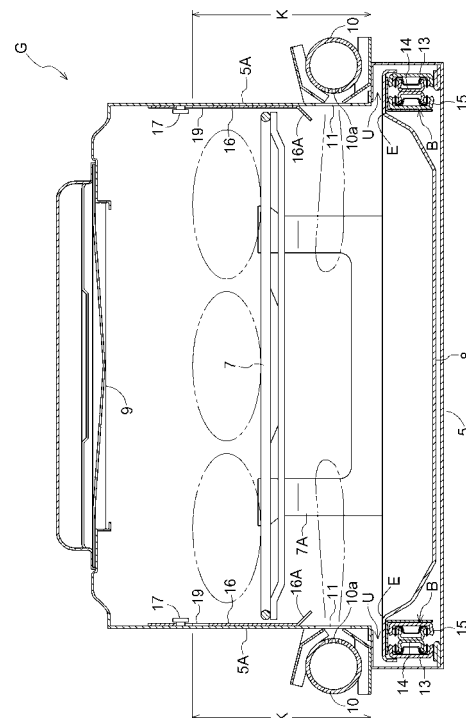
(54) 【発明の名称】 グリル及びグリル付ガスコンロ

(57) 【要約】

【課題】使い勝手の向上を図ることができるグリルを提供する。

【解決手段】グリル庫5内に、被調理物の載置体7と、汁受け皿8とが装備され、グリル庫5の側壁5Aよりも外方箇所に、載置体7に載置された被調理物を加熱するためのバーナ10が、側壁5Aに形成した炎通過孔11を通してグリル庫5内に伸びる炎を形成する状態で、且つ、載置体7よりも横外方に位置する状態で配置され、側壁5Aにおける載置体7の横側方からバーナ10の下方に至る加熱対応部分Kが、載置体7よりも横外方に位置する状態に形成され、側壁5Aの加熱対応部分Kにおける少なくとも載置体7の横側方に相当する部分を覆う板状のカバー体16が着脱自在に設けられ、カバー体16の下端側部分が、下端側ほどグリル庫5の内方側に位置する傾斜姿勢に形成され、汁受け皿8が、カバー体16の下端から流下する流下物を受止める状態で設けられている。

【選択図】 図3



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

グリル庫内に、被調理物の載置体と、その載置体の下方に配置される汁受け皿とが装備され、

前記グリル庫の側壁よりも外方箇所に、前記載置体に載置された被調理物を加熱するためのバーナが、前記側壁に形成した炎通過孔を通して前記グリル庫内に伸びる炎を形成する状態で設けられたグリルであって、

前記バーナが、前記載置体よりも横外方に位置する状態で配置され、

前記側壁における前記載置体の横側方から前記バーナの下方に至る加熱対応部分が、前記載置体よりも横外方に位置する状態に形成され、

10

前記側壁の前記加熱対応部分における少なくとも前記載置体の横側方に相当する部分を覆う板状のカバー体が着脱自在に設けられ、

前記カバー体の下端側部分が、下端側ほど前記グリル庫の内方側に位置する傾斜姿勢に形成され、

前記汁受け皿が、前記カバー体の下端から流下する流下物を受止める状態で設けられているグリル。

【請求項 2】

前記カバー体が、前記側壁における前記炎通過孔よりも上方箇所を覆うように設けられている請求項 1 記載のグリル。

【請求項 3】

20

前記カバー体が、前記加熱対応部分の全体を覆うように設けられ、

前記カバー体に、前記炎通過孔に対応するカバー体側炎通過孔が形成されている請求項 1 記載のグリル。

【請求項 4】

コンロバーナにて加熱される加熱対象物の載置部が、天板に設けられ、請求項 1 ~ 3 のいずれか 1 項に記載のグリルが、前記天板の下方に配備されているグリル付ガスコンロ。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、グリル庫内に、被調理物の載置体と、その載置体の下方に配置される汁受け皿とが装備され、前記グリル庫の側壁よりも外方箇所に、前記載置体に載置された被調理物を加熱するためのバーナが、前記側壁に形成した炎通過孔を通して前記グリル庫内に伸びる炎を形成する状態で設けられたグリル、及び、そのグリルを備えたグリル付ガスコンロに関する。

30

【背景技術】**【0002】**

かかるグリルの従来例として、バーナが、載置体の横端部の下方に重複する状態で配置され、グリル庫の側壁におけるバーナに対応する部分が、グリル庫の内方に突出する凸状となるように形成されて、その凸状部の内方に、バーナが位置するように構成されたものがある（例えば、特許文献 1 参照。）。

40

【0003】

上記特許文献 1 においては、グリル庫の側壁におけるバーナに対応する凸状部分の上面部が、下方側ほどグリル庫の内方側に位置する傾斜状に形成されて、載置体に載置された被調理物からの飛翔物（魚の脂等）が、凸状部分にふり掛かることがあっても、その飛翔物を下方に流動させ易いものとなっている。

【0004】

また、特許文献 1 においては、コンロバーナにて加熱される加熱対象物の載置部が、天板に設けられ、天板の下方にグリルが配備されるグリル付ガスコンロが記載されている。

【先行技術文献】**【特許文献】**

50

【 0 0 0 5 】

【特許文献 1】特開 2 0 0 9 - 7 9 8 3 1 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【 0 0 0 6 】

従来のグリルにおいては、グリル庫の側壁におけるバーナに対応する凸状部分の上面部が、下方側ほどグリル庫の内方側に位置する傾斜状に形成されてはいるものの、載置体に載置された被調理物からの飛翔物（魚の脂等）が、凸状部分の上部に滞留し易いものであり、衛生面を良好に保つ等のために頻繁に清掃しなければならないものとなる。

しかしながら、グリル庫の側壁におけるバーナに対応する凸状部分は、見え難く、又、手が届き難い等により清掃し難いものであるため、従来のグリルは、使い勝手の悪いものであった。

10

【 0 0 0 7 】

ちなみに、被調理物からの飛翔物（魚の脂等）が、凸状部分の上部に滞留していると、バーナを燃焼させたときに、凸状部分の上部に滞留している飛翔物（魚の脂等）が燃焼することに起因して、被調理物を加熱調理するときに発生する煙の量が多くなる虞があり、この点からも、頻繁に清掃しなければならないものである。

【 0 0 0 8 】

本発明は、上記実情に鑑みて為されたものであって、その目的は、使い勝手の向上を図ることができるグリルを提供する点にある。

20

また、本発明の別の目的は、使い勝手を向上できるグリルを備えたグリル付ガスコンロを提供する点にある。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 9 】

本発明のグリルは、グリル庫内に、被調理物の載置体と、その載置体の下方に配置される汁受け皿とが装備され、

前記グリル庫の側壁よりも外方箇所に、前記載置体に載置された被調理物を加熱するためのバーナが、前記側壁に形成した炎通過孔を通して前記グリル庫内に伸びる炎を形成する状態で設けられたものであって、その第 1 特徴構成は、

前記バーナが、前記載置体よりも横外方に位置する状態で配置され、

30

前記側壁における前記載置体の横側方から前記バーナの下方に至る加熱対応部分が、前記載置体よりも横外方に位置する状態に形成され、

前記側壁の前記加熱対応部分における少なくとも前記載置体の横側方に相当する部分を覆う板状のカバー体が着脱自在に設けられ、

前記カバー体の下端側部分が、下端側ほど前記グリル庫の内方側に位置する傾斜姿勢に形成され、

前記汁受け皿が、前記カバー体の下端から流下する流下物を受止める状態で設けられている点を特徴とする。

【 0 0 1 0 】

すなわち、バーナが、載置体よりも横外方に位置する状態で配置されて、側壁における載置体の横側方からバーナの下方に至る加熱対応部分が、載置体よりも横外方に位置する状態に形成され、側壁の前記加熱対応部分における少なくとも載置体の横側方に相当する部分を覆う板状のカバー体が設けられているから、載置体に載置された被調理物からの飛翔物（魚の脂等）が、載置体の横側方に相当する部分を覆う板状のカバー体にふり掛かる傾向となる。

40

【 0 0 1 1 】

ちなみに、加熱対応部分とは、載置体に載置された被調理物からの飛翔物（魚の脂等）がふり掛かる可能性が高い部分であり、そして、載置体の横側方に相当する部分とは、特に、被調理物からの飛翔物（魚の脂等）がふり掛かる可能性が高い部分であり、載置体の真横よりも上側の範囲及び下側の範囲をも含むものである。

50

【 0 0 1 2 】

そして、カバー体の下端側部分が、下端側ほどグリル庫の内方側に位置する傾斜姿勢に形成され、汁受け皿が、カバー体の下端から流下する流下物を受止める状態で設けられているから、板状のカバー体にふり掛かった飛翔物（魚の脂等）が、下方に流動したのち、傾斜姿勢の下端側部分にて案内されながら落下して、汁受け皿にて受止め回収されることになる。

【 0 0 1 3 】

カバー体には、載置体に載置された被調理物からの飛翔物（魚の脂等）がふり掛かるものであるから、衛生面を良好に保つ等のために、カバー体を適時清掃することになるが、カバー体が着脱自在に備えられているから、カバー体を清掃する際には、カバー体をグリル庫から取外して、洗浄液にて洗い流すようにする等、カバー体の清掃作業を容易に行えるものとなる。

10

【 0 0 1 4 】

しかも、側壁における加熱対応部分が、載置体よりも横外方に位置する状態に形成されているから、カバー体の下端側部分を除いた部分が、載置体よりも横外方に位置することになるため、このカバー体の下端側部分を除いた部分には、載置体に載置された被調理物からの飛翔物（魚の脂等）がふり掛かり難いものとなる。

したがって、カバー体の下端側部分は、被調理物からの飛翔物（魚の脂等）が付着し易いため、念入りに清掃する必要があるものの、カバー体の他の部分については、被調理物からの飛翔物（魚の脂等）が付着し難いものであるから、念入りに清掃する必要がなく、この点からも、カバー体の清掃作業を容易に行えるものとなる。

20

【 0 0 1 5 】

また、上述の如く、カバー体の下端から落下する飛翔物（魚の脂等）が、汁受け皿に受止め回収されることになるが、汁受け皿は、調理中（加熱中）において、載置体に載置された被調理物から落下してくる落下物（魚の脂等）を受け止め回収するものであるため、本来的に、頻繁に清掃されるものであるから、カバー体の下端から落下する飛翔物（魚の脂等）が汁受け皿に受止め回収されることになっても、汁受け皿の清掃作業が増加することはない。

【 0 0 1 6 】

ちなみに、汁受け皿は、一般に、グリル庫に対して出し入れ自在でかつ着脱自在に装着されて、その清掃（洗浄）が行い易いものであるため、汁受け皿の清掃を頻繁に行うことになっても、使い勝手が悪くなることはない。

30

【 0 0 1 7 】

以上の通り、載置体に載置された被調理物からの飛翔物（魚の脂等）を、側壁を覆うように設けたカバー体にて案内しながら汁受け皿に回収することによって、グリル庫の側壁が飛翔物（魚の脂等）によって汚損されるのを抑制して、グリル庫の側壁を清掃する頻度を減少させるようにし、そして、被調理物からの飛翔物（魚の脂等）がふり掛かることになるカバー体は適時清掃することになるものの、カバー体を着脱自在に設けることによって、カバー体の清掃作業を容易に行うことができるようにするのである。

【 0 0 1 8 】

つまり、加熱調理を行うに伴って、カバー体や汁受け皿の清掃作業は頻繁に行う必要があるものの、グリル庫の側壁に対する清掃作業は頻繁に行う必要がないものとなり、そして、カバー体や汁受け皿の清掃作業は行い易いものであるから、使い勝手が向上するのである。

40

【 0 0 1 9 】

要するに、本発明の第 1 特徴構成によれば、使い勝手の向上を図ることができるグリルを提供できる。

【 0 0 2 0 】

本発明の第 2 特徴構成は、上記した第 1 特徴構成に加えて、

前記カバー体が、前記側壁における前記炎通過孔よりも上方箇所を覆うように設けられ

50

ている点を特徴とする。

【0021】

すなわち、カバー体が、側壁における炎通過孔よりも上方箇所を覆うように設けられるものであるから、カバー体には、バーナから伸びる炎を通過させるための孔を形成する必要がないため、カバー体の製作が容易となり、製作の容易化を図ることができる。

【0022】

また、側壁における炎通過孔よりも上方箇所を覆うように設けられるカバー体は、側壁における加熱対応部分の全体を覆うように形成するに較べて、小型で軽量となるため、着脱作業を良好に行い易く、使い勝手が一層向上する。

更に、被調理物からの飛散物（魚の油等）が側壁にある炎通過孔を通過してバーナ側へと向かうことを阻止できるので、清掃性が一層向上する。

10

【0023】

要するに、本発明の第2特徴構成によれば、上記第1特徴構成による作用効果に加えて、製作の容易化を図り、しかも、使い勝手と清掃性をより一層向上させることができるグリルを提供できる。

【0024】

本発明の第3特徴構成は、上記した第1特徴構成に加えて、

前記カバー体が、前記加熱対応部分の全体を覆うように設けられ、

前記カバー体に、前記炎通過孔に対応するカバー体側炎通過孔が形成されている点を特徴とする。

20

【0025】

すなわち、カバー体が、炎通過孔に対応するカバー体側炎通過孔が形成された状態で、加熱対応部分の全体を覆うように設けられるものであるから、バーナがグリル庫内に伸びる炎を形成することを適正通り行いながらも、側壁における載置体の横側方からバーナの下方に至る加熱対応部分の全体を覆うことができる。

【0026】

したがって、側壁の加熱対応部分の全体をカバー体にて覆うものであるから、載置体に載置された被調理物からの飛翔物（魚の脂等）が、側壁にふり掛かることを極力回避できるため、清掃し難い側壁に対する清掃を行う頻度を一層減少させること可能となる。

【0027】

要するに、本発明の第3特徴構成によれば、上記第1特徴構成による作用効果に加えて、側壁を清掃する頻度を一層減少させること可能となるグリルを提供できる。

30

【0028】

本発明のグリル付ガスコンロは、コンロバーナにて加熱される加熱対象物の載置部が、天板に設けられ、上記した第1～第3特徴構成のいずれかに記載のグリルが、前記天板の下方に配備されている点を特徴とする。

【0029】

すなわち、天板に設けた載置部に、鍋等の加熱対象物を載置して、その加熱対象物をコンロバーナにて加熱することができ、また、天板の下方に配備したグリルにて、載置体に載置した被調理物を加熱することができる。

40

【0030】

そして、天板の下方に配備したグリルは、上記した第1～第2特徴構成のいずれかに記載の構成を備えるものであるから、第1～第2特徴構成の欄にて述べた如く、使い勝手の向上を図ることができるものである。

【0031】

要するに、本発明は、使い勝手の向上を図ることができるグリル付ガスコンロを提供できる。

【図面の簡単な説明】

【0032】

【図1】グリル付ガスコンロの斜視図

50

【図 2】第 1 実施形態のグリルの切欠側面図

【図 3】同形態のグリルの縦断正面図

【図 4】同形態の汁受け皿の支持構造を示す概略側面図

【図 5】第 2 実施形態のグリルの切欠側面図

【図 6】同形態のグリルの縦断正面図

【発明を実施するための形態】

【0033】

〔第 1 実施形態〕

【0034】

以下、本発明の第 1 実施形態を図面に基づいて説明する。

10

【0035】

図 1 に示すように、コンロバーナとして、標準バーナ 1 a、小バーナ 1 b 及び高火力バーナ 1 c を備え、かつ、天板 2 の下方にグリル G を設けて、ビルトインタイプのグリル付ガスコンロが構成されている。

【0036】

天板 2 には、標準バーナ 1 a、小バーナ 1 b 及び高火力バーナ 1 c の夫々にて加熱される加熱対象物の載置部として、五徳 3 が設けられている。

また、天板 2 の後部側箇所には、グリル G の燃焼排ガスを排気するためのグリル排気口 4 が形成されている。

ちなみに、ガスコンロ前側面には、コンロバーナやグリル G の点火及び消火や火力調節を指令する手動操作部 5 が設けられている。

20

【0037】

グリル G には、図 2 及び図 3 に示すように、前面部及び背部が開口した筒状に形成されたグリル庫 5 が備えられ、グリル庫 5 の後方側には、燃焼排ガスをグリル排気口 4 に導く排気ダクト 6 が接続され、グリル庫 5 の前部には、グリル扉 A が装備されている。

【0038】

グリル庫 5 内には、被調理物の載置体としての焼き網 7 と、その焼き網 7 の下方に配置される汁受け皿 8 とが装備されている。

本実施形態においては、焼き網 7 を支持する前後一对の支持体 7 A が、汁受け皿 8 の前端部及び後端部に着脱自在に装着されている。

30

ちなみに、汁受け皿 8 及びグリル扉 A は、後述の如く、グリル庫 5 に対して一体的に出退自在に支持され、焼き網 7 が、汁受け皿 8 に支持された状態で、グリル庫 5 に対して出退されるようになっている。

【0039】

グリル庫 5 の上壁部には、焼き網 7 に載置された被調理物を上方から加熱する輻射式の上バーナ 9 が装備されている。

グリル庫 5 の側壁 5 A よりも外方箇所に、焼き網 7 に載置された被調理物を加熱するためのバーナとして、左右一对の下バーナ 10 が、側壁 5 A に形成した炎通過孔 11 を通してグリル庫 5 内に伸びる炎を形成する状態で設けられている。

また、左右一对の下バーナ 10 の夫々は、焼き網 7 よりも横外方に位置する状態で配置されている。

40

【0040】

つまり、左右一对の下バーナ 10 は、長手方向に沿って燃料噴出口 10 a を備える円筒状に構成されて、長手方向がグリル庫 5 の前後方向に沿う姿勢で、グリル庫 5 の側壁 5 A の外方箇所に、焼き網 7 よりも下方側でかつ焼き網 7 よりも横外方に位置する状態で配置されている。

【0041】

また、左右一对の下バーナ 10 は、グリル庫 5 の背部側に相当する一端部から燃料ガスが供給される際に、一次空気がエジェクタ作用によって供給され、かつ、グリル庫 5 の底部に形成した空気孔 12 等から外気が二次空気として取り入れられて燃焼する、いわゆる

50

ブンゼン式バーナとして構成されている。

【 0 0 4 2 】

グリル庫 5 の左右の側壁 5 A の焼き網 7 の横側方から下バーナ 1 0 の下方に至る加熱対応部分 K を含めて、側壁 5 A の上端から加熱対応部分 K の下端までの間に位置する部分が、鉛直方向に沿う板状体にて構成されて、側壁 5 A における上端から加熱対応部分 K の下端までの間に位置する部分の内面が、鉛直方向に沿う面となるように形成されている。

また、左右の側壁 5 A が、加熱対応部分 K を含めて、その全体を焼き網 7 よりも横外方に位置する状態に形成されている。

【 0 0 4 3 】

また、左右の側壁 5 A における加熱対応部分 K の下方に位置する底部側部分が、外方に凹入する凹入部 U を形成すべく外方側に凹入する状態で設けられている。

そして、凹入部 U の内部には、汁受け皿 8 やグリル扉 A を出退自在に支持するスライドレール式の案内機構 B が設けられている。

【 0 0 4 4 】

スライドレール式の案内機構 B は、図 3 及び図 4 に示すように、グリル庫 5 の左右の凹入部 U 内に、長手方向をグリル庫 5 の前後向に向けた姿勢でグリル庫 5 に固定設置される固定側レール部 1 3、その固定側レール部 1 3 に対してグリル庫 5 の前後方向に移動自在に支持される中間レール 1 4、及び、その中間レール 1 4 に対してグリル庫 5 の前後方向に移動自在に支持される可動レール部 1 5 を備えている。

【 0 0 4 5 】

そして、汁受け皿の左右の端縁部が、左右の案内機構 B における可動レール部 1 5 に対して、上方に取り外し自在な状態で、載置支持されている。

また、グリル扉 A が、左右の案内機構 B における可動レール部 1 5 の先端部に支持されている。

【 0 0 4 6 】

したがって、汁受け皿 8 は、グリル庫 5 の前方に引き出した状態で、上方に持ち上げるにより、可動レール部 1 5 から取外することができるため、可動レール部 1 5 から取外した状態で洗浄を行うことができる。

尚、詳細な構造についての説明は省略するが、グリル扉 A は、可動レール部 1 5 に対して着脱自在に取付けられて、可動レール部 1 5 から取外した状態で洗浄を行うことができるようになっている。

【 0 0 4 7 】

左右の側壁 5 A における加熱対応部分 K における少なくとも焼き網 7 の横側方に相当する部分を覆う板状のカバー体 1 6 が、側壁 5 A における炎通過孔 1 1 よりも上方箇所を覆う状態で、着脱自在に設けられている。

そして、カバー体 1 6 の下端側部分 1 6 A が、下端側ほどグリル庫 5 の内方側に位置する傾斜姿勢に設けられている。

ちなみに、本実施形態においては、カバー体 1 6 が、加熱対応部分 K よりも上方側部分をも覆うように構成されている。

【 0 0 4 8 】

つまり、カバー体 1 6 は、下端側部分 1 6 A を除いた上側部分が、鉛直方向に沿う平板状に形成され、その平板状の上側部分の下端に、傾斜姿勢の下端側部分 1 6 A が連なる形態に構成されている。

ちなみに、カバー体 1 6 の上側部分の内面は、鉛直方向に沿う面となるため、被調理物からの飛翔物（魚の脂等）が、ふり掛かることがあっても、その飛翔物が円滑に下方に流動することになる。

【 0 0 4 9 】

そして、汁受け皿 8 が、カバー体 1 6 の下端から流下する流下物を受止める状態で設けられている。

つまり、汁受け皿 8 の上縁部における内方側端部 E が、カバー体 1 6 の下端よりもグリ

10

20

30

40

50

ル庫外方側に位置する状態で、汁受け皿 8 が設けられている。

【 0 0 5 0 】

したがって、焼き網 7 に載置された被調理物からの飛翔物（魚の脂等）が、カバー体 1 6 にふり掛かる傾向となるが、カバー体 1 6 にふり掛かった飛翔物（魚の脂等）が、下方に流動したのち、傾斜姿勢の下端側部分 1 6 A にて案内されながら落下して、汁受け皿にて受止め回収されることになる。

【 0 0 5 1 】

カバー体 1 6 には、被調理物からの飛翔物（魚の脂等）がふり掛かるものであるから、衛生面を良好に保つ等のために、カバー体 1 6 を適時清掃することになるが、カバー体 1 6 が着脱自在に備えられているから、カバー体を清掃する際には、カバー体 1 6 をグリル庫 5 から取外して、洗浄液にて洗い流すようにする等、カバー体 1 6 の清掃作業を容易に行えるものとなる。

【 0 0 5 2 】

カバー体 1 6 をグリル庫 5 に着脱自在に取り付ける構造について説明を加えると、グリル庫 5 の側壁 5 A に、カバー体 1 6 を係止支持する前後一對の頭付ピン 1 7 が設けられている。

カバー体 1 6 におけるグリル庫 5 の後部側に相当する後端縁部には、前後一對の頭付ピン 1 7 のうちの後方側の頭付ピン 1 7 に対して係合する切欠き部 1 8 が形成され、カバー体 1 6 におけるグリル庫 5 の前部側に相当する前端部には、前後一對の頭付ピン 1 7 のうちの前方側の頭付ピン 1 7 に対して係合する係合孔 1 9 が形成されている。

【 0 0 5 3 】

係合孔 1 9 は、下方側に頭付ピン 1 7 の頭部が挿通可能な大径部を備え、かつ、上方側に頭付ピン 1 7 の頭部が挿通不能な小径部を備える、いわゆるダルマ孔状に形成されている。

【 0 0 5 4 】

したがって、カバー体 1 6 をグリル庫 5 に装着する際には、先ず、カバー体 1 6 をグリル庫 5 の後方側に移動させながら、後端部の切欠き部 1 8 を後方側の頭付ピン 1 7 に係合させ、次に、係合孔 1 9 の大径部を通して前方側の頭付ピン 1 7 の頭部を挿通させながら、カバー体 1 6 を側壁 5 A に接近させる側に移動させて、係合孔 1 9 を前方側の頭付ピン 1 7 に係合させることにより、カバー体 1 6 をグリル庫 5 に装着することができる。

【 0 0 5 5 】

また、カバー体 1 6 をグリル庫 5 から取外す際には、先ず、カバー体 1 6 を少し持ち上げ、その後、係合孔 1 9 の大径部を通して前方側の頭付ピン 1 7 の頭部を挿通させながら、カバー体 1 6 を側壁 5 A から離間させる側に移動させて、係合孔 1 9 を前方側の頭付ピン 1 7 から離脱させ、次に、カバー体 1 6 をグリル庫 5 の前方側に移動させながら、後端部の切欠き部 1 8 を後方側の頭付ピン 1 7 から離脱させることにより、カバー体 1 6 をグリル庫 5 から取外すことができる。

【 0 0 5 6 】

〔 第 2 実施形態 〕

次に、第 2 実施形態について説明するが、この第 2 実施形態は、カバー体 1 6 の構成の別実施形態を示すものであって、その他の構成は、第 1 実施形態と同様であるため、以下の記載においては、カバー体 1 6 の構成、及び、そのカバー体 1 6 の構成に対応するグリル庫 5 における側壁部の構成を説明して、その他の構成についての説明は省略する。

【 0 0 5 7 】

図 5 及び図 6 に示すように、グリル庫 5 の側壁 5 A が、その上端から下端に亘って、鉛直方向に沿う板状体にて構成されて、側壁 5 A における上端から下端までの間に位置する部分の内面が、鉛直方向に沿う面となるように形成されている。

また、左右の側壁 5 A が、その全体を焼き網 7 よりも横外方に位置する状態に形成されている。

【 0 0 5 8 】

そして、本実施形態においては、カバー体 16 が、加熱対応部分 K の全体を覆う状態で、着脱自在に設けられており、カバー体 16 には、側壁 5 A に形成した炎通過孔 11 に対応する状態で、カバー体側炎通過孔 11 A が形成されている。

ちなみに、カバー体 16 を着脱自在に支持する構造は、第 1 実施形態と同様であり、また、本実施形態においても、カバー体 16 が、加熱対応部分 K よりも上方側部分をも覆うように構成されている。

【0059】

また、カバー体 16 の下端側部分 16 A、つまり、カバー体側炎通過孔 11 A よりも下方に位置する下端側部分 16 A が、下端側ほどグリル庫 5 の内方側に位置する傾斜姿勢に形成されている。

10

【0060】

つまり、カバー体 16 は、上記第 1 実施形態と同様に、下端側部分 16 A を除いた上側部分が、鉛直方向に沿う平板状に形成され、その平板状の上側部分の下端に、傾斜姿勢の下端側部分 16 A が連なる形態に構成されている。

ちなみに、カバー体 16 の上側部分の内面は、鉛直方向に沿う面となるため、被調理物からの飛翔物（魚の脂等）が、ふり掛かることがあっても、その飛翔物が円滑に下方に流動することになる。

【0061】

そして、汁受け皿 8 が、カバー体 16 の下端から流下する流下物を受止める状態で設けられている。

20

つまり、汁受け皿 8 の上縁部における内方側端部 E が、カバー体 16 の下端よりもグリル庫外方側に位置する状態で、汁受け皿 8 が設けられている。

ちなみに、汁受け皿 8 及びグリル扉 A は、第 1 実施形態にて説明したスライドレール式の案内機構 B にて支持されている。

【0062】

したがって、焼き網 7 に載置された被調理物からの飛翔物（魚の脂等）が、カバー体 16 に多量にふり掛かる傾向となるが、カバー体 16 にふり掛かった飛翔物（魚の脂等）が、下方に流動したのち、傾斜姿勢の下端側部分 16 A にて案内されながら落下して、汁受け皿にて受止め回収されることになる。

【0063】

30

〔別実施形態〕

次に、別実施形態を列記する。

（イ）上記第 1 及び第 2 実施形態では、頭付ピン 17 に対して係止する状態でカバー体 16 を着脱自在に設ける場合を例示したが、例えば、カバー体 16 の背部に、グリル庫 5 の前後方向に沿う被係合レールを設け、かつ、グリル庫 5 の側壁 5 A に、被係合レールが係合自在な案内レールを設けて、カバー体 16 をグリル庫 5 の前後方向にスライド移動させながら着脱させるように構成する等、カバー体 16 を着脱自在に取付ける構造は種々変更できるものである。

【0064】

（ロ）上記第 2 実施形態では、側壁 5 A の上端から下端に至る全体を鉛直方向に沿う板状体にて構成する場合を例示したが、第 2 実施形態における側壁 5 A として、凹入部 U を備える第 1 実施形態の側壁 5 A を適用してもよい。この場合、第 1 実施形態と同様に、凹入部 U の内部に、スライドレール式の案内機構 B を配備することになり、カバー体 16 の下端部分 16 A を小さくして、デザイン性とお手入れ性を向上させることができる。凹入部 U の内部に、スライドレール式の案内機構 B を配備することになる。

40

【0065】

（ハ）上記第 1 及び第 2 実施形態では、スライドレール式の案内機構 B を用いて、汁受け皿 8 を出退自在並びに着脱自在に支持する場合を例示したが、汁受け皿 8 を出退自在並びに着脱自在に支持する構成は、種々の構成を適用できるものである。

【0066】

50

(二) 上記第 2 実施形態では、下端側ほどグリル庫 5 の内方側に位置する傾斜姿勢に形成された下端側部分 1 6 A が、カバー体側炎通過孔 1 1 A の下方に位置している構成を示したが、この構成に加え、カバー体側炎通過孔 1 1 A の上方に、下端側ほどグリル庫 5 の内方に位置する傾斜姿勢に形成された、下端側部分 1 6 A と同様の突出部を持つ構成としてもよい。この場合、カバー体 1 6 の形状は複雑化するが、第 1 実施形態と同様に、被調理物からの飛散物（魚の油等）が側壁にある炎通過孔 1 1 を通過してバーナ側へと向かうことを阻止できるので、清掃性が一層向上する。

【 0 0 6 7 】

(ホ) 上記第 1 及び第 2 実施形態では、グリル G が、グルリ付ガスコンロに装備される場合を例示したが、本発明のグリル G は、グリル専用機を構成する場合にも適用できるものである。

10

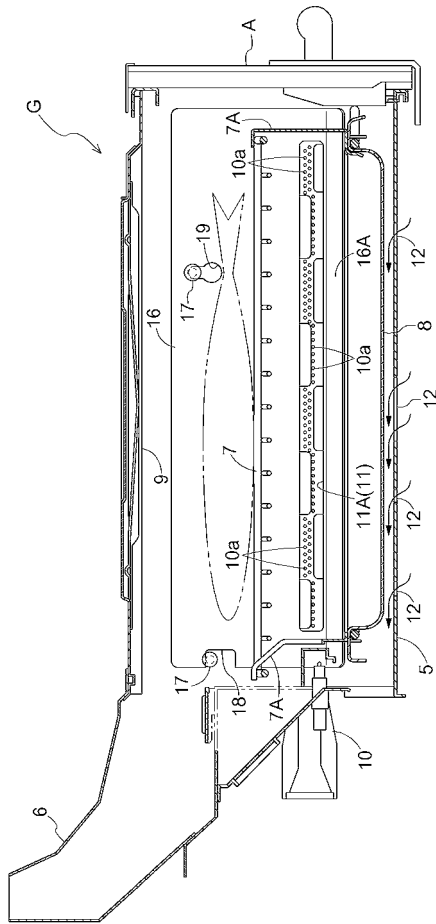
【符号の説明】

【 0 0 6 8 】

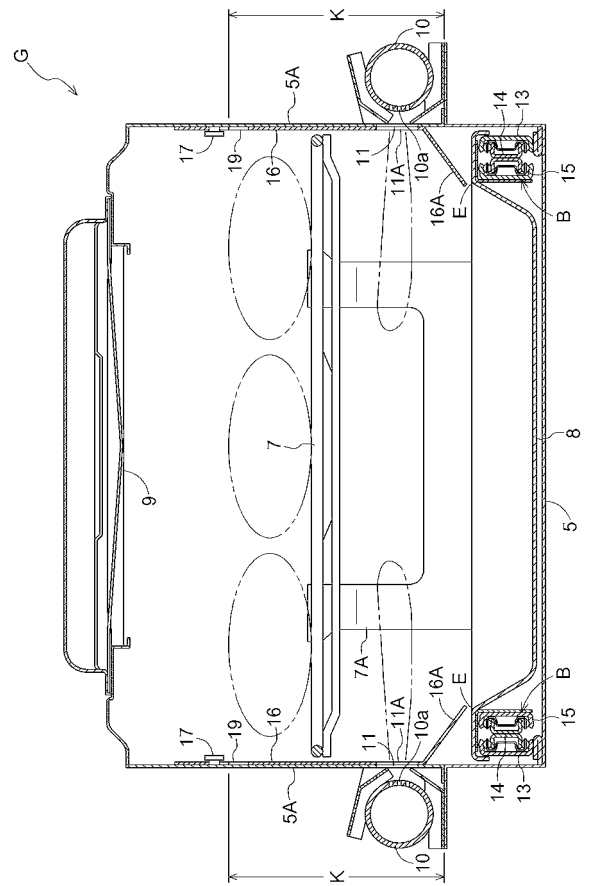
1 a	コンロバーナ
1 b	コンロバーナ
1 c	コンロバーナ
2	天板
3	載置部
5	グリル庫
5 A	側壁
7	載置体
8	汁受け皿
1 0	バーナ
1 1	炎通過孔
1 1 A	カバー体側炎通過孔
1 6	カバー体
1 6 A	下端側部分
K	加熱対応部分

20

【図 5】



【図 6】



フロントページの続き

(72)発明者 谷野 涼

大阪府大阪市此花区春日出南三丁目 2 番 1 0 号 株式会社ハーマン内

(72)発明者 内田 譲

大阪府大阪市此花区春日出南三丁目 2 番 1 0 号 株式会社ハーマン内

F ターム(参考) 4B040 AA03 AB02 AC02 AD04 AE13 CA02 EA02